

REDDプラスに関する国際議論

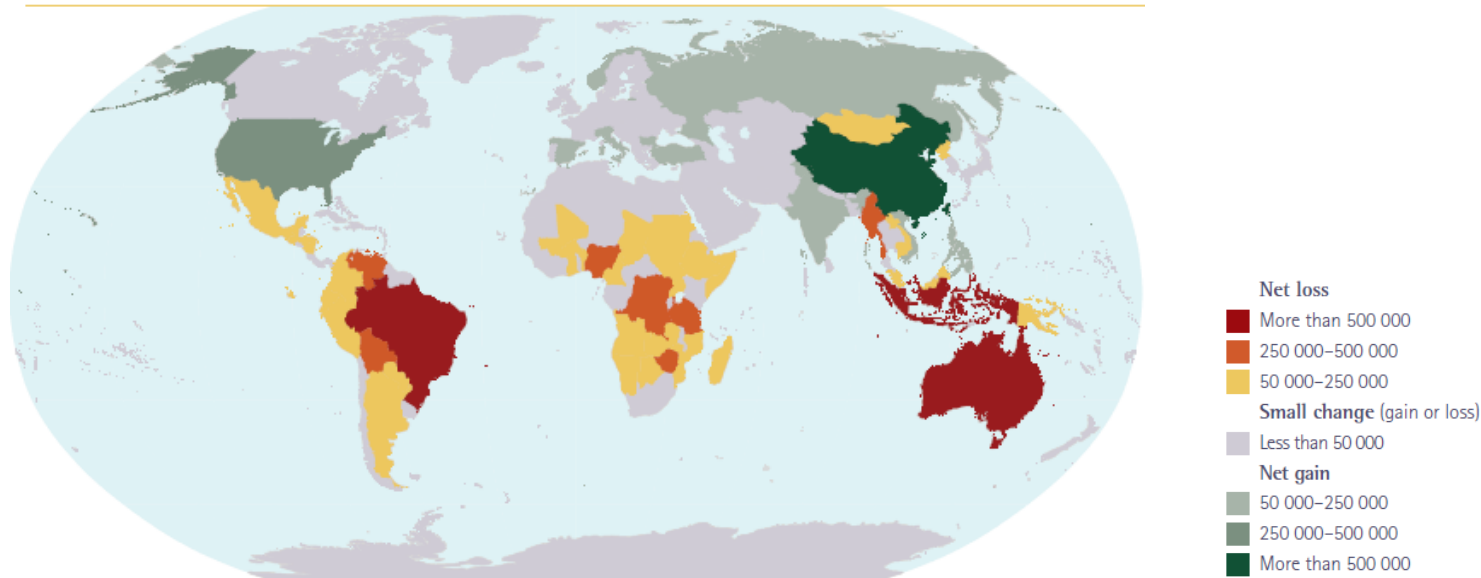


赤堀聡之
林野庁 研究・保全課

途上国における森林減少等の進行

- 世界の森林面積は40億ha(陸地の3割)
- 毎年520万ha/年が純減(2000～2010年)

Net change in forest area by country, 2005–2010 (ha/year)



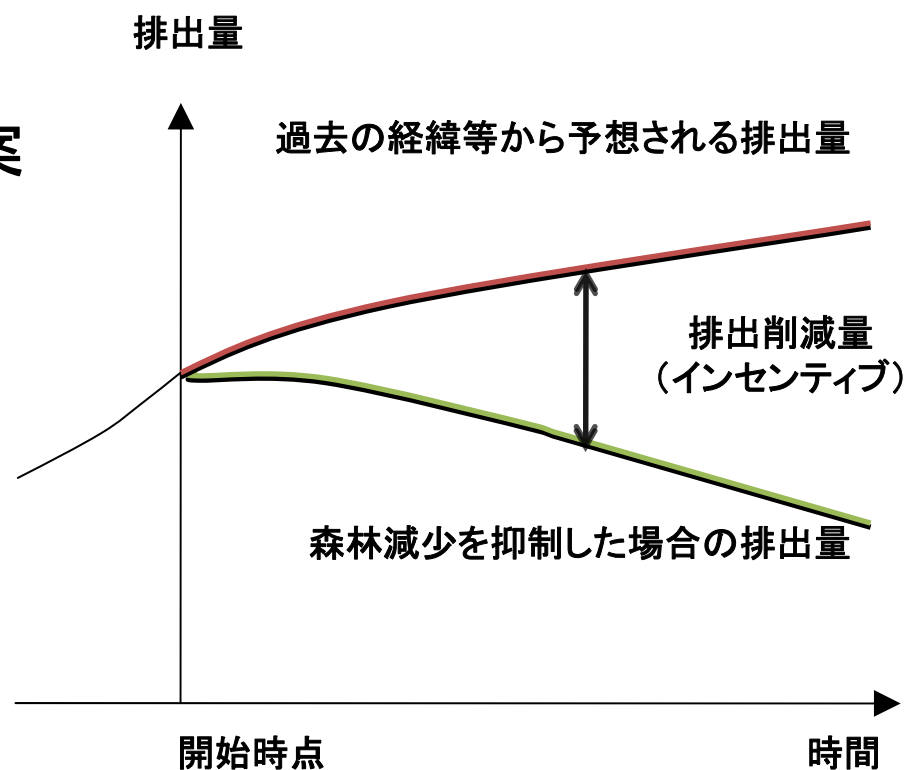
(source: FAO, FRA 2010)



2011 • 国際森林年

REDD+の考え方

- 気候変動枠組条約第11回締約国会議(2005年)にてPNGとコスタリカが共同提案
 - これまでの森林減少による排出量等により参照排出レベル(ベースライン)を設定
 - 森林減少対策を実施
 - 排出量をモニタリング
 - 排出削減量に応じ資金等のインセンティブ措置



REDD+推進のための主要な動き

- COP決定「条約の下での長期的協力の行動のための特別作業部会の作業結果」に、REDD+が盛り込まれ、その基本事項について決定
- 当該決定は本文と附属書により構成
 - REDD+の活動、全締約国・途上国・先進国・SBSTA・AWG-LCA・関係機関等の取組を記載
 - 本文に加えて、附属書として、REDD+の取組みのガイダンスとセーフガード、補助機関(SBSTA)の作業計画が添付



2011・国際森林年

COP16決定の概要(1)

Preamble
(前文)

(… 締約国は団結して森林被覆及び炭素の損失を低減、停止、反転することを目的とすべきことを確認)

ガイダンス(Annex I)

環境十全性、森林や他の生態系の多面的機能、Result-based、持続可能な森林経営 等

REDD+の活動

¶70

- (a) 森林減少からの排出の削減
- (b) 森林劣化からの排出の削減
- (c) 森林炭素蓄積の保全
- (d) 持続可能な森林経営
- (e) 森林炭素蓄積の強化

促進
(Promote)

セーフガード(Annex I)

- 森林プログラムや条約等を補完、整合
- 森林ガバナンス
- 先住民等の知識及び権利の尊重
- 先住民等の参加
- 天然林や生物多様性の保全と整合
- 反転のリスクへの対処
- 排出の移転の減少



2011・国際森林年

COP決定の概要 (2)

¶71

… 途上国は … 次の要素の策定等に取り組む

国家戦略等

森林参照排出
レベル等

国家森林モニ
タリング・シス
テム等

セーフガードに
関する情報提
供のシステム

¶73&74

国情、能力や将来性、受ける援助の程度により、フェーズで実施

①準備段階

②実施段階

③完全実施段階

- ・ 国家戦略等の策定
- ・ 能力開発

- ・ 国家戦略等の実施。能力開発、実証活動等を含む

- ・ 完全にMRVされる結果に基づく活動



2011 • 国際森林年

COP決定の概要 (3)

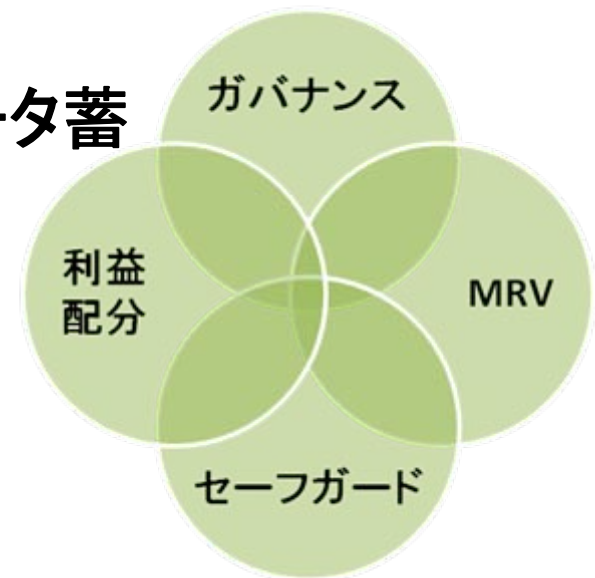
¶68

全ての締約国に対し、森林減少の原因への取組みも含めて、森林に対する人為的圧力を減少させるための効果的手法を探求

	Works(検討事項)	COP17(2011)	COP18(2012)
SBSTA Annex II	I森林減少・劣化の原因に結びつくLULUCF活動による排出量等を推計するための方法論的事項の特定と、緩和への貢献の評価		
	参照排出レベル、森林モニタリング・システム等のモダリティ		
	セーフガードに関する情報提供のシステムのガイダンス		
	森林からの排出量等に関するMRVのモダリティ		
AWG-LCA	¶77 資金オプションの探求)		

今後の視点 (1)

- 気候変動緩和としての緊急性
- 資金の必要性の議論
- REDD+の仕組みづくりには…
 - 適切なMRVシステムや十分なデータ蓄積(信頼性のある仕組みの前提)
 - ガバナンスや透明性の確立
 - 住民等への利益配分
 - セーフガード



今後の視点 (2)

- 準備段階が中心、実証事業等の実施段階も開始
 - 技術・手法開発やデータ収集の努力(技術面)
 - 技術支援プロジェクトや実証事業の成果(活動面)
 - これらの国際的な枠組みでの認知、活用
- 各国でREDD+はどのように進展しているか
 - インドネシア; REDD+庁の設立、伐採権の停止、ノルウェーとの取りきめ、他
 - 他の東南アジア諸国、COMIFAC(コンゴ河流域)、ブラジル、他
 - 多国間の取組、他

今後の視点 (3)

- 様々なイニシアティブへの参加の可能性
 - UNFCCCのプロセスに取って代わるものではなく、これを補完するもの
 - 単独の「REDD+活動」の可能性？
 - 相手国による認知
 - 関連イニシアティブへの参加
 - 多国間の取組: FCPF, FIP, UN-REDD, REDDES (ITTO) etc.
 - 二国間の取組: Indonesia-Australia, Indonesia-Norway etc.
 - フォーラム: REDD+ partnership
 - MRV: GOFC-GOLD, VCS etc

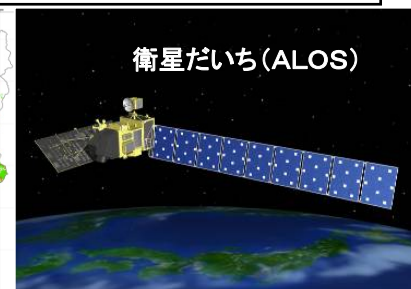
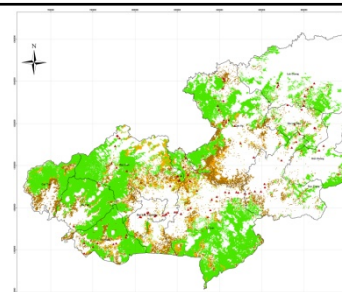


REDD+に貢献する我が国の取組

- 途上国においては、現場レベルの実証的な取組を通じて得た経験・知見を、REDD+に関する国家計画の策定・実施や森林のモニタリング体制の整備等に活用しながら取組みを拡大(フェーズド・アプローチ)
- REDD+の確実な実施のためには、森林からの排出量の把握手法等の開発や、途上国の人材育成、技術移転等の課題に取り組むことが必要

【我が国の取組みの例】

- ① 森林のモニタリング技術等の開発・移転
衛星を使った森林減少・劣化の把握に関する技術開発・移転を推進中 (林野庁事業、JICA)
- ② 森林減少の抑制活動を推進
ブラジルにおける衛星を活用した違法伐採防止やラオスにおける生計向上と森林保全の両立を目指す取組への支援(JICA)
- ③ 各国協調した支援への参画
世界銀行による森林炭素パートナーシップ基金(FCPF)等に協力(各国の拠出表明額合計2億ドル、うち我が国は1千万ドルを拠出)
- ④ 森林技術の研修・普及等
技術移転等に必要な本邦技術者の養成等、国際的な森林減少対策に対応した国内体制の整備(林野庁事業)



衛星だいち(ALOS)

最新の衛星情報を基に森林の状態を判読する技術によって森林減少・劣化を把握(インドネシア、ラオス等)



焼畑耕作による森林減少の防止が課題(ラオス)



2011 • 国際森林年

ありがとうございました
Thankyou